

かんどう ふね たび
おもてなしに感動、船の旅

にほん
～日本へクルーズ～



か ひと しっぴつしゃ
書いた人/執筆者

ホー たいわん
エマ 賀 (台湾)

てつだ ひと
手伝ってくれた人

なかごしな おみ にほん
中越尚美 (日本)

台湾の人は旅行が大好きです。学校や仕事が休みになると、友人や家族、親戚の人たちと一緒に、あちらこちらに旅行します。山に行ったり、海に行ったり、湖の周りでサイクリングしたりなど、どこに行っても旅行をしている人がたくさんいます。

でも、台湾の面積は、日本の九州くらいしかありません。しかも、北から南まで、高速鉄道で約90分なので、日帰り旅行も簡単にできます。ですから、台湾の人々は、もっと遠い海外へ行きたくなるのです。

クレジットカード会社VISAの数年前の調査で、台湾人の海外旅行先で一番人気の国は日本だったそうです。回答者の70.1%が「1年以内に是非、行きたい国」として日本を選びました。この数字は、第2位の韓国(24.5%)や第3位のシンガポール(14.6%)を大きく越えています。

日本へ旅行したいからでしょうか。台湾では日本語を勉強する人も多いです。書店には日本語の本がたくさん売られています。喫茶店にも、よく日本の雑誌が置いてあって、いつでも読むことができます。テレビでも毎日のように、日本を紹介する番組をやっています。それで、

に ほん りゅうこう たいわん りゅうこう
日本での流行は、すぐに台湾でも流行するのです。

たいわんじん もっと い くに に ほん みりよく たいわん
台湾人が最も行きたい国、日本は魅力がいっぱいです。台湾には
し き あき こうよう ふゆ ゆき げ しき たいわん み
ない四季があり、秋の紅葉や冬の雪景色など、台湾では見ることの
し ぜん ほう ふ に ほん くるま うんてんせき みぎがわ
できない自然が豊富にあります。ただ、日本の車は運転席が右側で、
どうろ ひだりがわつこう たいわん はんたい かんこう
道路は左側通行というのが、台湾とは反対です。レンタカーで観光す
るとき ちよつと ふ べん かん
る時に、ちょっと不便に感じられるでしょう。

かいがいりょこう ふ つう ひ こう き つか じつ
さて、海外旅行には、普通は飛行機を使いますね。ですが、実は
たび たの こうつうしゅだん
もっとリラックスして旅を楽しめる交通手段があります。それはクルー
ズです。

いま ねん いじょう まえ ゆうじん どうじ
今から 10年以上も前ですが、私は友人と、当時はまだ
めずら おきなわ あそ い
珍しかったクルーズで、沖縄に遊びに行きました。ものすごく
たの ふね たび あたま
楽しかったので、いつかまた船の旅をしたいとずっと頭のどこかで
おも
思っていました。

とき ざっし こうこく め と たいわん に ほん
そんな時、ある雑誌の広告に目が留まりました。台湾から日本の
し こく きゅうしゅう い さん かしゃ ぼしゅう なん
四国と九州へ行くクルーズの参加者を募集しているのです。何と、
きよねん さいしん ごう かきやくせん まよ
去年できたばかりの最新の豪華客船だというではありませんか。迷うこ
となく、すぐ電話をかけて予約してしまいました！

か ぞく あと おそ おそ はな はは さい たんじょう
家族にはその後で、恐る恐る話しました。でも、母の 93歳の誕生

び いわ りょこう い あね ふ さい はは よろこ どう い
日を祝うための旅行だと言うと、姉夫妻も母も喜んで同意してくれま
しゃんはい はたら わたし おっと し ごと やす ざんねん
した。上海で働いている私の夫は、仕事を休めないため、残念ながら
さん か かね はら はは あね
参加できず、お金だけ払ってくれることに……。というわけで、母と姉
ふう ふ わたし にん にほん さん か
夫婦、私の4人で日本へのクルーズに参加しました。

に
二



しよ か がつ わたし じんせい か い め にほん りょこう
初夏の6月、私は、人生2回目の日本へのクルーズ旅行に
い こんかい の ふね ねん じょうきやく じょういん
行きました。今回乗った船は、2017年にできたばかりの、乗客と乗員
あ やく にん の おお ふね にほん つく
を合わせて約5000人が乗れるとても大きい船です。日本で作られた
もつと おお ふね
最も大きい船だそうです。

いよいよクルーズ初日です。まずは、レストランなどの船内の施設の
ばしよ たし ちず も ふね なか ある
場所を確かめるため、地図を持って船の中を歩いてみました。けれど
せんない ひろ まいご
も、船内が広すぎて、すっかり迷子になってしまいました。スタッフさん
たす じぶん へ や もど
に助けをもらい、ようやく自分の部屋に戻ることができました。



せんない
船内

せんない
船内には、ありとあらゆる施設しせつ そろが揃ひとっていて、まるで一つの町まちのよう
です。私わたしのように地図ちずが読めなくて迷子よになりやすい人まいごは、まずはイン
ターネットの検索けんさくをおすすめします。ネット検索けんさくで、食事しょくじのメニューや
イベントの日程にっていなどについて、何なんでも知しることができます。すごいと
おもおもったのは、何なんと、朝あさ早くから夜よる遅おそくまで、一日中いちにち様々なイベントが
開催かいさいされていることです。

イベントのスケジュール表ひょうは、毎日まいにち客室きやくしつにも配くばられます。私わたしの母はは
(93歳さい)のように、ネットつかを使うのが苦手にがてな人ひとにとっても親切しんせつなサービス
です。

えい が
映画やコンサート、ミュージカルやマジックショーなどが毎日まいにちありま
す。また、鑑賞かんしょうするだけでなく、実際じっさいに参加さんかできる教室きょうしつもあります。温
すい
水プールや、温泉おんせんのような銭湯せんとうもあります。さすがは、日本にほん生まれの

ふね
船ですね。

ふね なか だれ りょこう じゅうぶんまんきつ
船の中にいるだけで、いつでも、誰でも、旅行を十分満喫できるお
もてなしが用意されています。ですから、高齢者や身体が不自由な
かた ちい こ かぞく ごう か きやくせん
方、小さな子どものいる家族などにとって、豪華客船のクルーズはと
かいてき おも
ても快適だと思います。

さん
三

こんかい にほん ようかかん こうちけん みやざきけん かごしまけん
今回の日本クルーズは8日間で、高知県、宮崎県、鹿児島県、
ながさきけん かしよ ほうもん
長崎県の4か所を訪問しました。

ながさきけん
長崎県

こうちけん
高知県

かごしまけん
鹿児島県

みやざきけん
宮崎県



あさ にほん みなと つ ふね お おおがた の かくち
朝、日本の港に着いたら、船を降りて、大型バスに乗って、各地
かんこうち い ゆうがた じ みなと もど ふね
の観光地まで行きます。夕方4時くらいに港に戻って、また船に

の 乗ります。そして、船は次の目的地に向かって出発します。

さいしょ どうちやく しこく こうちけん せつめい
最初に到着したのは四国の高知県です。ガイドさんの説明によると、
こうちけん かんこうち みりやく たか いろいろ くふう
高知県は、観光地として魅力を高めるために、色々な工夫をしている
そうです。

たと みなと おお おお せん はい
例えば、港を大きくきれいにし、大きなクルーズ船が入れるようにし
ました。そのお蔭で、私たちの船も立ち寄ることができました。その
こうじ つづ ひろ みなと
工事はまだ続いていて、もっと広くて、もっときれいな港にするそうです。

せん えいご ちゅうごくご はな わか
クルーズ船のガイドは、英語はもちろん、中国語も話せる若い
にほんじんじょせい にほん れきし ちほう はってん ようす くわ しょうかい
日本人女性でした。日本の歴史や地方の発展の様子を詳しく紹介
してくれました。今回のように、台湾から船が出発する時は、英語ガイ
ドさんだけでなく、ちゅうごくご かなら の
中国語のできるガイドさんも、必ず乗るそうです。

みなと つ ふね お みやげ う しゅってん
港に着いて船から降りると、お土産を売る出店ブースが
たなら わたし かんこうきゃく ゆうがたふたふね の
立ち並んでいます。私たち観光客が夕方再び船に乗るまで、いつで
か もの たの べんり
も買い物を楽しむことができ、便利でした。

さいしょ こうちけん ゆうがた ふね みなと はな とき
最初の高知県では、夕方、船が港を離れる時に、たくさんの
にほんじん きし て ふ
日本人が岸で手を振って、

「さようなら～」

「ありがとう～」

おお こえ さけ み おく ひと あたた かん
と大きい声で叫びながら、見送ってくれました。人の温かさを感じること

かんどう わたし ふね うえ て ふ
ができ、ものすごく感動しました。私たちも船の上から手を振って、

「またね～」

「ありがとう～」

れい い
と、お礼を言いました。

ご しょ みなと い おな かんどうてき
その後3か所の港に行きましたが、どこでも同じような感動的な
けいけん
経験をしました。

たと みやざきけん ふうせん と み おく
例えば、宮崎県では、風船をたくさん飛ばして見送ってくれました。

あお そら いろ ふうせん ま うつく かんどう
青い空に色とりどりの風船が舞って、その美しさに感動しました。

か ごしまけん おど み おく
鹿児島県では、フラダンスを踊りながら見送ってくれました。フラダ

ここち おんがく ころ いや
ンスの心地よい音楽で、心が癒されました。



フラダンス

ながさきけん しょうがくせい こてきたい じょうず えんそう みおく
長崎県では、小学生の鼓笛隊が上手に演奏して見送ってくれま
ちい こ たち いっしょうけんめい えんそう すがた むね
した。小さな子ども達が、一生懸命に演奏する姿に胸がいっぱいに
なりました。

い ひと あたたか かんどう ころ
どこに行っても人の温かさに感動させられました。心からのおもてな
きも き おも
しは気持ちのいいものです。またここに来たいと思わせてくれます。

し 四

せん おお ふね みなと で い たいへん
クルーズ船のような大きい船が港に出入りするのは大変なことです。
とく うみ なか あんしょう み おお いわ ばあい かいいき
特に、海の中に暗礁（見えない大きい岩など）がある場合、その海域
し ちい ふね ゆうどう じゅうよう
をよく知っている小さい船、パイロット・ボートによる誘導はとても重要で
す。

たと みやざき みなと まわ こじま おお ふね
例えば、宮崎の港の周りには小島がたくさんあり、大きい船がそこ
で い きけん
を出入りするの、とても危険です。そのため、パイロット・ボートが、し
ゆうどう ひつよう うん よ
っかり誘導する必要があります。運が良かったことに、パイロット・ボ
わたし おお せん あんぜん かいいき ゆうどう
トが、私たちの大きいクルーズ船を安全な海域まで誘導してくれるの
じぶん きやくしつ み
を、自分の客室のベランダから見ることができました。



パイロット・ボート

おお ふね となり なら すす おお せん あんぜん
大きい船の隣に並んで進みながら、大きいクルーズ船の安全を
まも ちい ふね いっしょ およ ねったいぎよ
守っている小さい船は、まるでクジラと一緒に泳いでいる熱帯魚のよう
で、とても愛らしく見えました。

あんぜん かいいき つ ちい ふね うみ うえ いっしゅう
ようやく安全な海域にたどり着くと、その小さい船は、海の上を一周
まわ
くると回って、

ゆうどう お だいじょうぶ
「誘導が終わりましたよ。もう大丈夫ですよ」

つた とき おお せん きてき な
と伝えるのです。その時、大きいクルーズ船も汽笛をボーツと鳴らして、

つか さま
「ありがとう。お疲れ様」

かんしゃ きも つた ちい ふね おお せん
と、感謝の気持ちを伝えます。小さい船と大きいクルーズ船の

ふ あ おもしろ かんどうてき
触れ合いは、ちょっと面白くもあり、とても感動的でした。

ご五

今回の旅では、4つの県を訪れ、それぞれ色々な観光地に行きました。

最も印象深かったのは、宮崎県の「鵜戸神宮」です。洞窟に造られている神社は日本唯一で、初代の天皇の父親は、ここで生まれになったのだそうです。崖の壁に建てられた神宮は、小さいけれども、とても神秘的に思えました。



うどじんぐう
鵜戸神宮

その神宮の入り口では、小さい石を売っていました。小石5個で100円です。崖の下には大きい岩があって、その岩の真ん中の穴に

うま こいし な い ねが かな わたし
上手く小石を投げ入れることができたなら、願いが叶うそうです。私も
こいし か な なんかい しっぱい
小石を買って、投げってみました。何回やっても失敗。そして、つい
かい しょうず い あな な い
に1回だけ上手に入れることができました。しかし、穴に投げ入れること
むちゆう す がん か かみさま ねが ごと わす
に夢中になり過ぎて、願掛け(神様に願い事をする)を忘れてしま
いました。

みやざきけん つぎ いんしょうぶか おび じょうかまち えど
宮崎県で次に印象深かったのが、飢肥の城下町です。江戸
じだい ぶけ やしき なら おびじょうかまち きゅうしゅう しょうきょうと
時代からの武家屋敷が並ぶ「飢肥城下町」は、「九州の小京都」と
よ うつく ふぜい まち かくちょうたか やしき
も呼ばれています。とても美しくて風情のある町で、格調高い屋敷が
なら やしき りっぱ かま むかし ぶけ ちい
並んでいます。それらの屋敷の立派な構えから、昔の武家の地位が
たか どうじ ちいき しょみん た い きん
とても高かったことがわかります。当時この地域は、庶民は立ち入り禁
し いま だれ でい じゅうみん
止だったそうですが、今は誰でも出入りができて、住民もいるというこ
とです。

わたし きやく まち かんこう とき
私たちクルーズの客が街を観光する時は、バウチャーをもらいます。
しょうじ ひん こうかん
バウチャーとは、食事をしたり、おみやげ品と交換したりできるチケット
にほんえん がいこくじん か もの しょうじ
のことです。日本円をもっていない外国人でも、買い物や食事ができ
はいりよ べんり
るように配慮されていて、とても便利です。

ちず かたて つか た ある はんにち
地図を片手に、バウチャーを使って食べ歩きをしましたが、半日の
たいざい もの た かん お つ ふん い きただよ はず じょう
滞在では物足りないと感じました。落ち着いた雰囲気漂う静かな城

かまち なが じ かんたいざい
下町で、もっと長い時間滞在したかったです。

さん ぼ かんこうあんない おもしろ
のんびり散歩していると、観光案内のパンフレットにはない面白い
はっけん たと そっこう こい およ にほん
発見もできます。例えば、側溝にはなんと鯉が泳いでいました。日本
とくちょう ひと せいけつ じゅうぶん
の特徴の一つである清潔さについては、十分わかっていたつもりで
たが、まさか側溝の中でも鯉が飼えるとは、思いもよらなかったこと
です。



まちある とちゆう こうこうせい であ
街歩きの途中で、アンケートをしている高校生たちに出会いました。
せいふく き えいご れいぎただ はな
みんな制服を着ていて、英語で礼儀正しく話しかけてくれました。この
まち みりよく たか ほうほう かんこう
町の魅力を高めるために、おもてなしの方法や観光サービスについて、
なに い かいどう とき わたし
何かアドバイスをくださいと言われました。アンケートに回答する時、私
すべ ゆう たいへん へいじつ
はもちろん全て「優(=大変素晴らしい)」とつけました。平日なのに
がっこう い がくせい き かんこうきやく えいご
学校に行かなくていいのかと学生たちに聞いたら、観光客に英語でア
ンケートするのが授業の一環だと答えてくれました。

ろく
六

めいぶつ ち ほうごと こと こう ち ゆうめい むかし
名物も地方毎に異なります。高知ではカツオが有名で、昔ながら
いちば さしみ た
の市場で刺身を食べました。どれもとてもおいしかったです、あぶつ
とく こう ち じょう まえ かなもの や のき
たカツオは特におすすめです。高知城の前には、金物屋が軒を
つら かたな めいぶつ
連ねていましたから、どうやら刀も名物のようです。

ほか けん いろいろ めいぶつ たと か ご しま けん
他の県でも色々な名物がありました。例えば、鹿児島県の
まくら ざき し ぶし せいさんりょう に ほんいち
枕崎市は、カツオ節の生産量が日本一だそうです。それから、
みやざきけん みやざきぎゅう わぎゅう ゆうしょう
宮崎県の宮崎牛は和牛のオリンピックで優勝したことがあるそうです。
か ご しまけん しまづ け べってい せんがんえん い うつく さつ ま
また、鹿児島県で島津家別邸の仙巖園に行った時、美しい薩摩
きりこ う み
切子のガラスが売られているのを見ました。



さつ ま きり こ
薩摩切子



ながさき
長崎

ながさき い わたし だいす だいひょうてき めいぶつ
長崎と言えば、私の大好きなカステラが、代表的な名物です。

ながさき にほん さいしょ がいこくじん かいほう まち どうじ
長崎は日本で最初に外国人に開放された街なので、その当時

がいこくじん す ようしき たてもの きょうかい いちぶ どうじ ほ
外国人が住んでいた洋式の建物や教会なども、一部当時のまま保

ぞん ちゅうか がい ながさき にほん ようしょく
存されています。中華街もあります。それから、長崎は、日本の洋食

はっしょうち ながさき めいぶつ
の発祥地ともいわれているようで、カステラが長崎の名物になったの

ふしぎ おも あまとう わたし やま か
も不思議ではないと思いました。甘党の私は、カステラを山ほど買っ

てしまいました。

かなみに、か ごしまけん か ぶし あじ ぜっぴん
ちなみに、鹿児島県で買ったカツオ節も、その味は絶品です。

おくぶか せんさい あじ しょっかん たいわん ぜんぜんちが み そしる
奥深い繊細な味で、食感も台湾のものとは全然違います。味噌汁に

あ もの あ へ た りょうり か
入れても、和え物として和えても、どんな下手な料理もおいしく変わる

なん あいしょう ばつぐん
ほど、何にでも相性は抜群です。

しち
七

今回のクルーズ旅行では、日本について他にも色々なことを学びました。思い出深い経験ができ、心も体も癒されました。数々のおもてなしに感動がいつぱいの旅でした。

中国語のことわざに「千里の道 万巻の書」というのがあります。「千里の道を行くのは、万冊の本を読むのに勝る」という意味です。このことわざは、今回の私の旅の締めくりにぴったりの言葉だと思えます。

また機会があったら、是非クルーズで日本へ旅行したいです。

はち
八

この日本クルーズは母の 93歳の誕生日のお祝いでもありました。母はとても元気で、気持ちも口も若い人には負けません。でも、体力はなくなってきた、遠くに旅行するのは難しくなっていました。豪華客船のクルーズは、船内にいるだけで色々な面白い体験ができ、母と一緒に楽しい時間を過ごすことができました。おまけに、料理も掃除も

せんたく なに しゅ ふ てんごく
洗濯も、何もしなくていいのも、主婦にとっては天国です。

わたし つか ひと さい はは
ただ、私を疲れさせたことが一つだけありました。93歳の母はおしゃ
まいにち けしやう せんしつ しゅっぱつ まえ けしやう じかん
れで、毎日お化粧をします。船室から出発する前に、お化粧に時間
をは ま じかん なが かん い
をかける母を待つ時間がいつも長く感じられました。レストランに行くだ
まいかい き ふく えら じかん
けなのに、毎回着ていく服を選ぶのにも時間がかかり…あー、まだか
な…といらいらしてしまったのは事実です。

い いろいろ ひと
でも、どこに行っても色々な人から、

「きれいなおばあちゃんですね」

こえ たび うれ はは えがお み
と声をかけられ、その度に、にこにこ嬉しそうな母の笑顔を見るのが、
かぞく しあわ
家族みんなの幸せでもありました。



ひだり あね はは わたし あね おつと しゃしん と
左から、姉、母、私 (姉の夫が写真を撮りました)

(5315 字)